

令和6年塩尻市議会

塩尻市総合計画特別委員会会議録

○日 時 令和6年2月8日(木) 午後3時40分

○場 所 第一・第二委員会室

○1 協議事項

(1) 第六次塩尻市総合計画第1期中期戦略素案について

(2) 令和6年度の組織再編について

○2 その他

○出席委員

委員長	中村 努 君	副委員長	上條 元康 君
委員	古畑 秀夫 君	委員	百瀬 友彦 君
委員	小松 勝子 君	委員	小口 直実 君
委員	小野 芳幸 君	委員	石井 勉 君
委員	山崎 油美子 君	委員	樋口 千代子 君
委員	青木 博文 君	委員	赤羽 誠治 君
委員	平間 正治 君	委員	小澤 彰一 君
委員	篠原 敏宏 君	委員	中野 重則 君
委員	青柳 充茂 君	委員	牧野 直樹 君

○欠席委員

なし

○説明のため出席した理事者・職員

副市長	石坂 健一 君	総務部長	青木 正典 君
企画政策部長	高砂 進一郎 君	市民生活事業部長	百瀬 一典 君
健康福祉事業部長	降幡 美保 君		
産業振興事業部長 (産業政策・先端産業振興・観光担当)		古畑 久哉 君	
産業振興事業部長 (農政・森林担当)		上條 吉直 君	
建設事業部長	曾根原 博 君	生涯学習部長	胡桃 慶三 君
こども教育部長	太田 文和 君	水道事業部長	細井 良彦 君
企画課長	紅林 良一 君	企画課企画係長	上間 匠 君

○議会事務局職員

事務局長	山崎 浩明 君	事務局次長	宮原 勝広 君
------	---------	-------	---------

午後3時38分 開会

○委員長 ただいまから塩尻市総合計画特別委員会を開会いたします。本日の委員会は、委員全員出席しております。

開会に当たり、理事者から挨拶があればお願いします。

理事者挨拶

○副市長 大変お忙しい中、引き続き塩尻市総合計画特別委員会を開催いただきまして、誠にありがとうございます。御提案申し上げます事項2案件につきまして、よろしく御協議を賜りますようお願い申し上げます。私からは以上です。

1 協議事項 (1) 第六次塩尻市総合計画第1期中期戦略素案について

○委員長 それでは、協議事項に入ります。第六次塩尻市総合計画第1期中期戦略素案について説明を求めます。

○企画政策部長 それでは、資料No. 1をお願いいたします。第六次塩尻市総合計画第1期中期戦略素案についてであります。

1の提案の趣旨にありますように、令和6年度から令和8年度までの第六次塩尻市総合計画第1期中期戦略について素案を作成いたしましたので、御協議をお願いするものです。

2の内容の(1)であります。本市の行政系指数、行政評価・実施計画、予算編成を経て、施策の内容をまとめたものがありますし、(2)重要事業、特色ある事業について重点投資(星印)、それからブランド事業を設定しています。(3)それぞれの指標についての目標値を定めました。

3の経過については記載のとおりであります。

4の会議後のスケジュールですが、3月21日総合計画審議会から最終答申が出ます。年度末、第1期中期戦略及び実施計画を確定していくというスケジュールであります。

それでは、冊子の説明に移ります。現在、予算編成を行っています。3か年の事業でありますから事業の方向性、それから令和6年度事業については、具体的に記載をいたしました。3本の基本戦略、全てについて記載をいたしましたので、よろしくをお願いいたします。

それでは、全体内容、重点投資を中心に御説明します。3、4ページをお願いいたします。3ページの一番下に中期戦略の特徴のところに重点投資の説明があります、早期に成果を導出していく取組を重点投資ということで、赤字で記載をしました。それから、4ページの上になりますが、ブランド戦略。この市のイメージを向上させる、価値を高める、他地域との差別化を図る、こういった取組をブランド事業と設定をしました。

続いて6ページをお願いいたします。戦略指標(KGI)ということで、戦略ごとの指標であります。御覧のように、幸福度を中心とした主観指標、アンケート調査の結果です。それから、統計データを利用した客観指標、それぞれ設定をいたしました。それぞれに目標値、それから現状値を定めたものです。

分野1、上から3つ目の子どもたちがいきいきと暮らせると思う市民の割合、これは幸福度指標の1つであります。現状値は61.2%、令和14年度の目標値は71.2%ということで、おおむね幸福度につきましては、10%

アップの目標としております。それから、各統計データにつきましても、各事業部が高い目標をそれぞれ設定しています。

それでは、戦略分野ごとに主な内容を説明いたします。まず、分野1の子育て関係ですが、9ページをお願いいたします。施策1-1です。全体構成も併せて御説明をいたしますが、まず施策名については、状態を記載して、目指す方向性を記載いたしました。その下の想定する取組ということで、ここに3か年の主な事業を記載しております。特に下から3つ目の白丸、妊娠・出産・子育ての総合相談「あんしんサポートルーム」の実施ということで、ブランド事業と位置づけました。これは塩尻のブランドとして定着をしております。他地域との差別化を図っていくものとして、子育て家庭からも好評を得ておりますので、こういったブランド事業をさらなる内容の充実。それから、外部への訴求プロモーションも行っていきたいと考えております。

それから、その下に施策指標（KPI）ということで、それぞれの指標、現状値と目標値を設定し、ブランド事業については特別に、ブランド指標を設定いたしました。ここでは、あんしんサポートルームの利用者数の増ということでPDCAを回していきます。

その下、ありがたい未来をつくる“共創アクション”ということで、市民、関係機関の役割を設定し、この内容は各事業指針の中で組み入れていく。こういった構成になっております。

それでは、続いて12ページをお願いします。施策1-4、想定する取組の赤字、重点投資であります。保育料無償化の拡大、家庭で保育する世帯への一時的保育の利用助成ということで、ブランド事業と書かれています。これは市長マニフェストの具現化を図るということでありますし、ブランド事業として内外へ発信して、子育て世帯からも選ばれる地域を構築していくということであります。

続いて、戦略分野2に移ります。教育の分野ですが、17ページです。施策2-1、教育の関係はさきの教育振興基本計画のところで説明があったとおりですが、想定する取組は複数ありますが、総じて特色ある学びの展開によって確かな学びの機会をつくるということです。特に下から3つ目のGIGAスクール運営支援センター、本市の地域人材を活用したのですが、ここを核としたICT活用教育を推進体制の強化ということで重点投資とさせていただきます。

続いて、19ページをお願いします。施策2-3、自校給食、学校給食の取組であります。地産地消の取組も併せて、ブランド事業に設定いたしました。

次に21ページをお願いいたします。施策2-5、想定する取組の赤字であります。教育支援センターを核とした不登校対策の推進ということで、子と親の心の支援員、中間教室、既存の人的支援、機能を生かして、より一体的に運営するために教育支援センターを編成いたします。ここを核とした取組といたします。これも重点投資です。

続いて、戦略分野3です。27ページ、生涯学習の関係です。施策3-3、想定する取組の一番上であります。市民の多彩な暮らしを支える課題解決型図書館の運営、重点投資、ブランド事業であります。本市のブランド・アイデンティティ「知の交流と想像」の核をなす図書館機能の強化、イベント等での発信を図ってまいります。

29ページをお願いいたします。施策3-5であります。ブランド事業、2事業あります。重伝建の管理運営、平出遺跡公園の観光交流イベント等活用促進ということで、歴史・文化遺産を活用した交流促進を図ってまいります。

続いて、35、36ページをお願いいたします。戦略分野4です。産業・観光ですが、35ページ、施策4-3、重

点投資として、新産業団地検討を含めた新たな工業用地の確保ということで、来年度予算で新産業団地目的地選定調査事業を盛り込んでいます。選定調査から始めるという内容。それから36ページの赤字、中心市街地の全体構想の検討と再整備に向けた機運の醸成ということで、こちらも市街地総合再生基本計画の策定を始めていきたいということです。両事業をまちづくりへの投資ということで実行してまいります。

37、38ページをお願いいたします。外部プロモーションの関係ですが、37ページでは、ブランド事業として観光振興の関係、38ページは木曾漆器、ワイン、個別ブランドを最大限活用したプロモーションを強化していきます。

続いて、戦略分野5、42ページになります。環境の関係です。施策5-2、森林整備であります。重点投資として、森林病虫害防除対策の実施です。これは、森林整備の条件を大きく拡大して、松くい虫対策、緩衝帯整備を進めるとともに、併せて森林整備を進める。両面で実施をしていきます。

続いて43ページ、施策5-3、ゼロカーボンの関係であります。重点投資として、市域・公共施設での再生可能エネルギーの利用促進。これは市民交流センター設備改修ですとか、公共施設のLED化を始めるものでありますし、事業者の再生可能エネルギー利用、省エネルギーの促進ということで、事業者の設備導入等の支援を進めてまいります。

続いて、戦略分野6、50ページになります。協働・行政運営です。施策6-4では、ブランド事業として、core塩尻を拠点とした地域DXの推進。これは、市民生活の質を高める具体的なサービスの創出、提供であります。

続いて戦略分野7、支え合い、54ページです。施策7-2です。これも地域福祉計画の中で説明がありましたとおり、全世代対応型支援体制の整備ということで、関連して55ページ、施策7-3、総合相談マネージャーによる個別支援・地域支援の取組の強化。さらには、3つ下の支え合い推進会議の支援。合わせて地域共生社会の実現を目指すということです。

続いて、戦略分野8であります。医療・介護の関係、61ページです。施策8-3、これも議会からの御意見のありました地域医療の在り方について、赤文字の重点投資として、広域的なネットワークによる医療体制の確保やオンライン医療の導入の記載をいたしました。

続いて63ページ、施策8-5、障がいについてということで、赤文字であります。医療的ケア・重度心身障がい児等に対する伴走型支援。それから、重点投資ではありませんが、一番下の就業・生活支援コネクター設置による支援ということで、コーディネーターの設置でありますとか、支援機関への委託業務によって、障がい者の自立を支援するという取組になります。

続いて戦略分野9、67、68ページ、インフラ・防災の関係であります。67ページ、施策9-1です。AIオンデマンドバスのるーとの実証運行、運営は重点投資、ブランド化事業でありますし、68ページ、施策9-2では、地区計画・まちづくり計画の策定、重点投資であります。これは、従来の指定既存集落の地区計画策定をするとともに、新たな都市的土地利用の指標を具体化する計画を策定していきます。

最後になりますが、71ページ、施策9-5、防災等ではありますが、重点投資ではありませんが、想定する取組の一番上の丸、防災体制・防災活動拠点の強化ということで、檜川の地域防災施設の建設、それから、吉田地区の移動系防災行政無線の子局の設置を進めてまいりますし、5つ下ではありますが、住宅等の耐震化ということで、これは県と連携した耐震化強化の取組を進めてまいります。

以上、雑駁ではありますが、説明は以上です。よろしく御協議のほど、お願いいたします。

○委員長 それでは、質疑を行います。委員の皆さんから質問はありませんか。

○百瀬友彦委員 確認ですけれども、38ページのブランド指標のワインを年間ボトル4本以上消費（購入）する市民の割合とありますけれども、現状値15%で、目標値20%とありますが、購入する市民はどうやって選んだのでしょうか。

○企画課長 これにつきましては、毎年、企画課のほうで、無作為抽出で市民意識調査を実施しておりまして、そこで抽出した数値を活用させていただいております。

○百瀬友彦委員 ありがとうございます。

○委員長 ほかにありませんか。

○小澤彰一委員 37ページです。アウトドアやインバウンドなど変化する観光ニーズを取り込んだという、そこをブランド事業として挙げていますが、指標として、奈良井宿の入り込み客数とあるのですが、40万人から61万人というのは、多分簡単に超えてしまうだろうと思われま。現時点では、中国などからの客などが増えてきて、篠原議員が御存じだと思いますけれど、具体的に何を提供するかとか、何をブランド化していくかという見通しみたいなものは提起しないのでしょうか。

○企画課長 こちらにつきましても、右側に目標値の考え方は、コロナ禍前の平成29年から令和元年度ということで、その平均値を回復するということが一定の考え方でありま。今の御指摘の点につきましては、奈良井宿の入り込み客数に対してどういう施策を打って出るかということだと思いますけれども、今のお話にもありました観光の入り込み客数を取り入れる、コロナが回復してからの雇用制度等も順次行っておりますし、ダイイングアウトイベントですとか、そういった奈良井地域の地場産品を特色としたイベント等の開催等についても、積極的に進めてまいりたいと考えております。

○小澤彰一委員 結構です。

○委員長 ほかにありませんか。

○平間正治委員 全体的に各般にわたって記載されている中で、市の主な事業のところは重点投資とかブランド事業というのを示していただいたことについては評価をしたいと思います。私は以前から、行政の総合計画ですから、ベーシックな部分、行政の基本的な部分とかそういう部分については、羅列したりとか総花的にならざるを得ないけれども、特に力を入れてやる部分というのは示してほしいということを申し上げてきて、そのことに対応していただいたと、自分としては理解をしておりますので、非常にいい形になっているのかなと。もちろん、こういう事業を拾ったということについて、市民の中にも賛否あると思います。賛同する人は賛成するだろうし、いやと思う人は反対とは言わないまでも、そういうことになると思いますが、私はそれがあっていいと思うのです。それがあって初めて、市民の皆さんの関心と呼ぶし、そこで新たな議論が生じるなら生じるで、発展的なものにしていけばいいので、非常にいい形で示していただいたと、これは冒頭に申し上げておきたいと思ひます。

ただ、その中で、項目の各施策の現状の課題があつて、それぞれ施策を書いてあるのですが、全般にわたって大変申し訳ないのですが、その中で21ページを見ても、きめ細やかな支援による平等な学習機会が提供される。それに対して、目指す方向性ということがあつて、中身を見ると、自分らしく過ごし学ぶ機会が提供されています。その下は、体制が構築されています。3つ目は、支援が用意されています。それならいいでしょうと。普通に読んでいくと、市民の皆さんがこう思つて、その下に市の主な事業が出てくるのですけれども、審議

会の中で議論していただいた内容ですから、私がいろいろ言うのも。見たときに、ずっと後ろのほうにわたって、目指す方向性というのができています、できていますということならば、何なのかと。どういう読み方をしたらいいのか。

○企画政策部長 それでは、8ページを例に取って御説明したいと思います。戦略分野1の現状と課題を記載いたしました。これはダイジェストでありまして、策定の段階で、庁内のプロジェクトチームで徹底的に現状と課題の拾い出しをしました。ワークシートを使って、関係職員、現場の職員にインタビューを通じて、まず現状と課題を洗い出したということです。

ここには、例えば2段落目、婚姻率と出生率の低下という大変大きな課題です。その下であります。子育て支援政策を重点政策に設定して、関連指標が好転し始めている。これは施設利用率が伸びているということです。しかしながら、よりきめ細かいサービスを提供することが必要であるという課題を抽出しておりますし、ひとり親世帯の増加によって、貧困の連鎖が起こっている、拡大をしている。

それを踏まえまして、その下のありたい姿を実現するためのステップということで、まず9年後のありたい姿、全体像です。これを設定いたしました。目標とする未来図を描いたということです。従来ですと、そうではなくて、フォアキャスティングといいまして、一步一步前進をしていくというような目標設定にこれまでしてきました。それでいきますと、どうしても安全を見るというか、ジャンプする速度が遅くなるといった目標設定になりますので、今回は9年後のありたい全体の姿を設定して、それを実現するための道筋を未来から現在へ遡って記述をしたということです。

したがって、一番下の初期成果の2年というのは、第1期中期戦略でそこまで到達したいという状態でありまして。それを施策に落とし込んで、それぞれに目指す方向性、あるいは指標の設定を行って、それを目指す、それを実現する主な事業を行う、こういうつくり込みでありますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○平間正治委員 話を聞くと、そういう積み上げというか、目標を9年後に置いておいて、その段階的なものをやっていく中の最初の段階のものを示しているということになるかと思ひます。聞くと分かるのですが、単純にこれを読んでいくと、市民の皆さんは分かるのかなというところがありまして。全部つくり直すということはもちろんできないでしょうし、検討していただいてある結果なので、これはこれとしても、説明の段なり何なりに、そういうことを市民の皆さんによく理解していただけるような、そういう形をお願ひするより仕方がないかなと。ぜひそんな形で、よろしくお願ひしたいと思います。要望です。

○委員長 ほかの方はいいですか。

○小澤彰一委員 質問する前に要望なのですが、49ページ、施策6-3、デジタルに関するところで、core塩尻を中心にして目指していくべきだと思うのですが、このページに入ると、突然専門用語が出てくるのです。BPRはビジネスプロセス・リエンジニアリングだそうですが、こういう略語を使う際には、略す前の原文、日本語でもいいのですが、書いてから略語を使ったほうがいいのではないかと。紙幅の関係もあると思ひますけれども、一般の方が読む場合に、少し不親切かなという感じがしました。御検討ください。

私の聞きたいのは61ページです。医療・福祉に関するところで、広域的なネットワークによる医療体制の確保とオンライン医療の導入、これはぜひ進めていただきたい。どういう方向性でここに書かれたのかと、伺っておきたいと思うのですが、よろしいでしょうか。

○企画課長 こちらのオンライン医療の導入につきましては、今年度、健康福祉事業部のほうで先進地視察も行

っております。今後、医療サービスに必要、研究が必要な分野だということで、これから重点的に取り組んでいくという意図で、こちらは重点投資ということで記載をさせていただきましたし、議会の皆様のほうでも、別途、この件につきましては、研究を進めていただいているという点もありますので、今後、地域DXの一つの医療DXの体制づくりという点で重点ということで採用させていただいております。

○小澤彰一委員 結構です。

○委員長 ほかにありませんか。

○石井勉委員 資料17ページになります。施策2-1ですけれども、目指す方向性の3つ目、学校の働き方改革について記載があります。ぜひそうあってほしいと思う立場としてはうれしい話なのですが、その下、市の主な事業、重点投資ということでGIGAスクール、ICT活用、そしてその下にも、ICT支援員の支援・指導による教職員のICT活用能力の向上ということが挙げられております。重点投資ですので、しっかりとした内容というふうに願いたいのですが、そうなってくると、施策指標の中にも、これに関する種別があってもいいのかなと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

○企画課長 御意見ありがとうございます。重点にした理由は、議員おっしゃったとおりということで私たちも考えておまして、GIGAスクールが1年前から始まっておりますけれども、学校間での格差が生じている点だとかをこれからしっかりとした体制、ICT活用推進体制の強化ということで、そのギャップも埋めていきたいということで、重点投資とさせていただきます。各指標につきましては、1月中旬に全庁を上げて確認作業、どれがいいかということを一時的に洗い出しながら、私たち企画サイドとしても俯瞰的に見させていただいて、現段階で適正と想定されるものを列記させていただいておりますので、今日御意見をいろいろ頂戴する中で、再度、この後も調整を進めてまいりたいと思いますので、今頂いた御意見を担当事業部と調整させていただきたいと思っております。

○石井勉委員 ありがとうございます。継続的に、これはもう全国的な取組になっているわけですが、報道等も随時取り上げておりますけれども、まだまだ全然進捗が遅いという報道のほうは圧倒的に多いです、塩尻市はICT教育に関しては周りからは先進的という評価をいただいているわけですので、ぜひこのまちだからできることを考えて発信していただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長 ほかにありませんか。

○小野芳幸委員 42ページをお願いいたします。森林整備の関係でいろいろ記載されているのですが、この間、バイオマスのこととか、いろいろなところで市長の言葉からもよく出ていたのですが、一番困るところが、ヒト・モノ・カネということがビジネスであるのですが、人が十分にいないということで、森林事業に従事する方の人材育成ということ、たびたび議会の中でも答弁の中に出てくるのですが、この中にやることは書いてあるのですが、人に関する育成みたいなものが、ここのところを見る限り見当たらないものですから、あえて理由があって、そういうものがここに記されていないのか、それとも取組としては、まだ明確な方向づけがないのでここに書かれていなかったのか、そこら辺どういう形で検討させているのかお伺いしたいと思います。

○企画政策部長 森林人材の育成について、主に塩尻市森林公社を中心に人材育成を進めております。この中の事業でしっかり明記はされていないのですが、事業費が多額なものは森林活用推進事業ということで、その中に森林人材育成の項目がありますので、委員御指摘の部分は重要な事項でありますので、目指す方向性に記載でき

るかどうか検討してまいりたいと考えております。

○小野芳幸委員 ありがとうございます。その点が気になったものですから、検討してもらえるとという形で承っております。

○委員長 ほかにありませんか。よろしいですか。

それでは、質疑を終了いたします。

第六次塩尻市総合計画第1期中期戦略素案については、了承するという事によろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○委員長 それでは、そのように処理いたします。

(2) 令和6年度の組織再編について

○委員長 次に、令和6年度の組織再編について説明を求めます。

○企画政策部長 それでは、資料No. 2、令和6年度の組織再編についてです。3の経過を御覧いただきたいと思っております。11月13日、本委員会にて御協議いただき、多くの御意見を頂きました。12月定例会において、組織条例案を議決いただいたということです。その後、庁内調整を経て、係等について固めていきたいということで、本日、御協議をお願いするものであります。

詳細につきましては、企画課長より御説明いたします。

○企画課長 それでは、2枚目のA3の横版の資料を御覧いただいております。こちらの内容につきましては、昨年12月議会で、組織条例の改正の前段で全体像を説明させていただいております。その後、担当事業部との細かい調整等を行った結果、こちらが最終案ということで、本日、御提示をさせていただくものでありますので、若干重複する部分があるかもしれませんが、主な点のみ御説明させていただきます。

まず、部ですけれども、昨年御説明させていただきましたとおり、事業部制の一定の効果が図られたということから、事業部を部として改良するという内容が前提です。

それでは、各部・課についての説明になります。左から2番目の企画政策部ですけれども、一番下、公共施設マネジメント課ですが、赤枠にありますとおり、今後、小中学校の公共施設を初めとしまして、公共事業の改修等が控えておりますので、公共施設の総量マネジメントを財政運営と一体的に進めるべきだということで、現在の総務部から企画政策部に移管するものです。

その隣、市民地域部ですけれども、真ん中の地域づくり課です。こちらに移住定住係を新設するという事で、持続可能な地域づくりに向けまして、移住定住の強化を図ってまいります。

その右側、健康福祉の関係ですけれども、地域共生推進課ということで、新たに課を新設するものであります。こちらは、先ほどの議員全員協議会でも御説明させていただきましたとおり、地域ぐるみの福祉、地域共生社会づくりに向けた課を新設し、全世代対応型の体制をつくってまいります。

その右側、農林部でありますけれども、こちらは新たに部を新設いたしまして、農政課、耕地林務課の2課制体制ということで、効果的な行政運営を進めてまいります。

その隣、商工観光部ですけれども、一番下、観光プロモーション課ということであります。外部プロモーションを一体的に推進するという事で、プロモーションを事務移管しますし、こちらについては、記載がありませんけれども、ふるさと寄附についてもこちらに移管させていただきます。

それから、右から3つ目ですけれども、こども教育部、その下、子ども未来課ということです。従来の家庭支援課をこども未来課と改称しまして、一等課に位置づけます。赤い枠であります。子ども政策を一層強化、総合的に推進するために位置づけるという内容でありますし、その下の教育施設課につきましては、先ほど企画政策部で申しあげました公共施設マネジメント課と連携を図りまして、こちらにつきましては、小中学校、保育園、児童館等、こども教育部所管の公共施設のマネジメントを図ってまいります。

それから、図の上の中段にありますゼロカーボン・GX推進プロジェクトであります。全部局横断ネットということで、ゼロカーボン・GXを力強く推進していくという形になります。

最後になりますが、表の下に参考的に載せております。こちらは組織規則の改正に直結はしませんけれども、組織の位置づけというふうに考えております。こども家庭センターです。左から4つ目の健康福祉部の一番下に点線枠でこども家庭センター。それから、右から2番目のこども教育部のこども未来課の下に、同じく点線で記載をさせていただいております。こちらは、要綱を設置させていただきまして、機能強化を図ってまいりたいというところであります。児童や妊産婦の福祉、母子保健の相談、支援を要する子ども等へのサポートを実施いたします。様々な資源による支援メニューにつなげるということで、そこに図が示してありますけれども、各課のつなぎの役目ということで、こども家庭センター要綱として設置をさせていただくというところで考えております。

雑駁ですが、説明は以上になります。よろしくお願いいたします。

○委員長 それでは、質疑を行います。委員の皆さんから質問はありませんか。

○平間正治委員 これについても、前回指摘をさせていただいた部分について検討していただいたことが確認できて、ありがたく思っていますが、それとこの表自体は別にして、以前はこの組織図に加えて、職員の役職名、お名前が入ったものが配付されていた時期があつて、近年見ないのですが、必要とする声も多く聞きますし、いつから無くなったのか、どうして無くなったのか。また、改めてどこか、パソコンなどで見られるところがあれば教えていただきたいと思つています。

○企画課長 以前は、細かい係単位まで御覧いただいていた時代があつたかもしれませんが、現在は、こちらの図に課長以上の名前を掲載したものをホームページで公表させていただいております。現段階ではそんな状況でありますので、今回につきましても、ホームページで公表するものについては、そのように考えております。

○平間正治委員 誰が担当しているのか、どこにどなたがいるのかという部分でも必要と思われる声を多く聞くのですけれども、今後、そういうものを出すつもりはないと。出せない理由があつたら、理由も含めて。

○総務部長 ただいまの御指摘の職員の配置図につきましては、今カオナビというシステムが庁内に入つておまして、オンライン上で職員の顔写真であるとか、名前であるとか、そういう部署で管理したり見られる状態にはなつておりますので、顔写真等が入つているものですから、個人情報等の関係もありまして、以前のような形ではお渡ししていないという状況であります。

○平間正治委員 カオナビはカオナビで結構だと思つています。庁内で使つていただければいいのですけれども、必要としている人は、庁内の人ではなくて、外部の方、例えば区長とか、そういう方からも声を聞くし、決して少なくなくて、顔まで出せとは言いませんが、係と名前くらい出しても。それはいろいろな考え方があると思つていますが、大きな差し障りがあるとは思えないのですが、その点についてもう一度、出すのか出さないのか。

○総務部長 現在は、先ほど申しあげたカオナビというところで管理をしておりまして、それをさらに別で組織

図なり名前を入れたものを出すといいますと、こちらとしても、二重管理みたいな形になってしまっていて、負担が大きくなるということもあるものですから、出してはおりませんが、今後の考え方として、そういう御要望が多いということであれば、そこら辺も含めて検討はさせていただきたいと考えております。

○**平間正治委員** 二重管理になるかどうかは行政のほうの話であって、必要としている人は市民、役所以外の人が多い。そこら辺は誰のための行政なのか、それを考えたときには、市民の皆さんにも、そういう要望に応じていくということも必要だと思いますので、ぜひ検討していただきたいと思います。要望です。

○**副委員長** こども家庭センターなのですが、場所はどこに設置されますでしょうか。

○**企画課長** 先ほど点線枠でということをお話をさせていただきましたが、主に健康づくり課とこども教育部のこども未来課との連携でありますけれども、事務局としましては、設置要綱上は2課が事務局となるということであり、また、主な中核的な事務は、今度できるこども未来課を中心に行っていくと。設置要綱上、センター長はこども教育部長、副センター長はこども未来課長と健康づくり課長ということで今想定しております。

○**副委員長** 非常に重要なところだと思いますので、市民の方々が分かるように表示をしていただきたいと思います。

乳幼児健診なのですが、場所はどこで行いますでしょうか。

○**企画課長** 従来どおり、健康福祉事業部の保健福祉センター等で健診等はやっていくという形になるかと思っております。

○**副委員長** 分かりました。

○**委員長** ほかにありませんか。

○**篠原敏宏委員** 12月の代表質問で私言ったのですが、当時では、先端産業振興室の名前が変わってという話がありましたが、DXがダブるという指摘をさせていただいた結果が分からないのですが、名前は元に戻ったという解釈でよろしいですか。

○**企画課長** 担当事業部とも調整させていただいた結果、この産業振興室に戻させていただいたという内容です。

○**篠原敏宏委員** 分かりました。これで地域DXと行政DXのところがすっきりしたというか、元に戻ったということで意味は分かりますので、そこは分かりました。

○**委員長** ほかにありませんか。よろしいですか。

それでは、ないようですので質疑を終了します。

令和6年度の組織再編については、了承するというのでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○**委員長** それでは、そのように処理いたします。

2 その他

○**委員長** 次に、その他について何か皆さんからありますか。よろしいですか。

ないようですので、理事者から挨拶があればお願いいたします。

理事者挨拶

○**副市長** 総合計画特別委員会を開催いただきまして、御提案申し上げました2案件につきまして御協議いた

きまして、大変ありがとうございました。

○委員長 以上をもちまして、塩尻市総合計画特別委員会を閉会といたします。お疲れさまでした。

午後4時23分 閉会

令和6年2月8日（木）

委員会条例第29条の規定に基づき、次のとおり署名する。

塩尻市総合計画特別委員会委員長 中村 努 印